

呼吸器リハビリテーション

(呼吸器リハビリテーション I 認定施設)

呼吸器リハビリテーションの対象疾患

急性発症した呼吸器疾患	肺炎、無気肺など
呼吸器・消化器疾患と その手術後	胸部外傷、肺腫瘍、食道癌、胃癌、肝臓癌、喉頭癌、膵臓癌、大腸癌などの手術後
慢性呼吸器疾患、	慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、気管支喘息など一定以上の重傷の呼吸困難や日常生活能力低下を来している場合

当院におけるリハビリテーションの取り組み

当院では特に呼吸器・消化器疾患の手術後の方に対して、術後早期からのリハビリテーションに力を入れており、

- ①喫煙歴がある
- ②高齢である
- ③呼吸器疾患がある・呼吸機能に問題がある
- ④痰が多い
- ⑤身体および運動機能に問題がある
- ⑥今までに手術歴がある
- ⑦開胸・開腹手術の大手術である
- ⑧その他リスクが大きい場合

上記①～⑧のような場合は、手術後の経過が順調に行くためにお手伝いをさせて頂いています。

術中の麻酔薬や鎮痛剤の影響、創部の痛み等によって、術後十分に痰を出すことができず、気道に痰などの分泌物が貯留し、肺に空気が入らない場所ができることを無気肺（むきはい）といいます。手術後の過度の安静は無気肺の発生のリスクとなります。

術後早期からのリハビリテーションは肺炎や無気肺などの術後の合併症を予防し、早期回復・早期退院につながります。



■手術後の呼吸器リハビリテーションとしては

- ①呼吸介助・体位変換を用いて、痰や分泌物による術後肺炎・無気肺を防ぎます
- ②深呼吸などの呼吸訓練を行います
- ③過度の安静による体力、筋力の低下を予防するため、早期から状態に合わせて座位・立位・歩行訓練と進めていきます

■呼吸器疾患の急性増悪期の呼吸器リハビリテーションとしては

肺炎や慢性呼吸器疾患の増悪などにより入院となった場合も①～③と同様のリハビリテーションを行います。

当院では、集中治療室において麻酔科医、主治医、看護師、理学療法士によるカンファレンスを毎朝行い、重症患者さまの状態に合わせたリハビリテーションを早期より開始しています。



カンファレンスの様子

尚、当院には呼吸療法認定士が常勤しております。